



## 防災部門コミュニティ推進者のつどい

# 学区の実態にあった防災マップづくり

日立市コミュニティ推進協議会主催で「防災マップのつくり方」研修会を、12月15日(日)に開催しました。22コミュニティから3名ずつ参加し、自分たちの地

域の実態に沿った防災マップについて議論しました。2月8日(土)には各学区コミュニティでシミュレーション防災マップの原型が披露されます。

### 講義

## まず地区内を歩く

この研修会には、日立市消防本部予防課の和田栄一課長が、マップ作りの基礎資料として、日立市で平成10年に作成した「防災マップ」に掲載した項目やノウハウ、市の防災体制、災害や風雨に関すること、自然災害の発生要素や起きやすい場所と対策、マップづくりの手順などについて講話を行いました。

地図を準備して実際に地域内を歩いて実態を把握する、目で確認した情報を書き込んでおく、役に立つ物や場所、人などを探ることなどの重要性を指摘しました。



マップづくりの手順など話す

### 体験談

## 学区独自の工夫で

すでに地域で防災マップを作成している田尻学区の山口昇さん、沖迫攻也さんと滑川学区の八幡忠治さんが、それぞれ発表しました。

学区独自に工夫したこと、支部ごとに分けて表示し分かりやすいマップにしたことや、今後パソコンに取

り込んで変化を修正できるようにすることなどを話しました。

また、いざという時のために、防火タンクの上に駐車しないことを地域で確認したことも報告されました。

この研修会で学んだことを参考にさまざまな角度から見直し、実際に役立つマップにしますと結びました。



作成したマップを説明する田尻学区の2人

### 演習

## 学区のマップ作成

この研修会に参加した人たちは和田課長の講義や田尻学区と滑川学区の発表などを参考にし、それぞれ22各コミュニティの状況を確認しながら、学区独自の防災マップについて話し合いを重ねました。

この研修会を契機に、各学区の実態にあった住民に役立つ防災マップの完成が楽しみです。

マップ作りを通して、実際に自分たちのまちを歩き、まちを知ることによって防災意識を高め、地域の状況にあった防災体制が整えられることが期待されています。



各学区の地図を見ながら話し合い

そして、この活動で地域の連帯が強められることも目的の一つとしてあげています。

# “ふん害”に憤慨！ 犬猫の排泄未処理は困ります

あなたが飼っているワンちゃんが、隣近所に迷惑をかけていませんか？ 吠える、噛みつく、ふんを残していくなど犬嫌いな人にとっては大問題です。特に、犬や猫のふんの放置にはどこの地域でも大迷惑しています。

## 日立市の“ふん公害”状況

日立市では平成10年に、「日立市飼い犬のふん害の防止に関する条例」が施行されましたが、その後どのような状況になっているか、担当課である環境衛生課を訪ねました。

らっていますが、看板はすでに1,200枚使用されています。

度々被害がある場合は、日立市が飼い主に指導を行うことがあります。

また、平成10年に施行した市の条例に違反した場合は、30,000円以下の罰金の規定があります。愛犬といつまでも仲良くいられる

### 多い苦情例

- ・家の玄関先にされる。
- ・畑、野菜の上、プランターの花の上に残される。
- ・公園や海岸に散乱して汚い。

### 苦情件数は93件

- 平成10年—46件
- 11年—18件
- 12年—16件
- 13年—13件

### 環境衛生課の指導

被害にあって苦情届け出があった方へは、市で作成した防止看板を、被害地に立ててもらい様子をみても



ために、防止看板が街中から無くなるよう、ふん処理マナーを守りましょう。

## 学校とコミュニティの2人3脚

学校が身近に感じられるようになってきました。各種団体・



個人などで構成する学校評議会のスタート、総合的な学習の時間やクラブ活動支援など、地域の人材活用が、学校と各学区コミュニティとの2人3脚で進められています。

地域では人材登録を進めながら積極的に応援をしています。様々な学校の要請に応えられるよう、22コミュニティの取り組みも問われることになります。

## 久慈学区に

# 市内で10館目のコミセン完成



平成15年3月に10館目のコミュニティセンターが久慈学区にオープンします。

日立市のコミセンの第1号は、昭

和59年5月にコミュニティ活動の拠点として開館した塙山コミュニティセンター、2館目は昭和62年4月に諏訪に誕生しました。続いて金沢、東多賀・河原子、仲町、助川、油縄子、田尻、大みかと次々と建設されました。

日立市のコミュニティ活動は、昭和50年から小学校区を単位として、「住んでよかったまちづくり」を進めています。

このコミュニティ活動の活発化や、住民の活動への要望も変化してきた

ことによって、拠点施設の必要性が住民の要望として出されました。市では市民みずからが、住みよいまちづくりを進めるための拠点施設として、公共的集会施設のない小学校区にコミセンを建設してきました。

また、現在ではふれあいプラザや(仮称)久慈川水系交流センターなども建設されつつあります。

コミュニティ活動の拠点には、いろいろな情報が集まってきます。各種の団体との協働がキーワードになっている現在、住民と行政の情報交換、学区内の各種団体との連携や交流などが盛んになり、コミュニティ活動に弾みがつきそうです。

# 広がる 健康テーマの活動

近年、健康に関心を寄せる人たちが多くなり、健康をテーマにした市民の活動も盛んです。22の学区コミュニティでも、健康を視点に入れたイベントも数多く実施されています。いくつかの事業を紹介します。

## 人生最後まで自立して過ごしたい

滑川まちづくり市民の会の女性部が実行委員をつとめて、市民講座を開催し、筋力アップ体操やダンベル体操など、健康に関する体験型講座を行っています。

参加人数は55名で、「人生最後まで自立して過ごしたい」を合言葉に、体力チェック、ウォークラリー、ミニコンサートなども企画、楽しみながら体力づくりをしています。

また、「毎日歩いて京都まで!」と、646.4km先の京都を目指して、毎日歩いた累積距離を記録する用紙を作成し、歩くことを奨励しています。



ダンベル体操で筋力アップ

## ふるさと歩こう会

「ふるさと歩こう会」は日立市北部の田尻・日高学区のシニアの人たちが中心となつてつくつたもので、



御岩山神社へ参拝ハイク

今年で8年目となります。身近な自然を歩きながら、ふるさとの歴史を学び、自然に親しんでいます。

また、健康増進を旨とし、人の輪を広げ、会員同士の親睦をはかる事をも目的にしています。誰もが気軽に参加でき、楽しく過ごせることを心掛けています。会員は現在107名で、年間5~6回のハイキング形式で例会が行われており、

常時40~50名の参加者で賑わっています。

## 『金砂大祭礼』巡行路をウォーク

水木学区市民運動推進会では、昨



潮風をうけて

年11月に恒例となった「日立の魅力再発見ウォーク」を行いました。

そのコースには、今年3月に行われる「金砂大祭礼」の巡行路をたどるコースを設定しました。

72年に一度の大祭礼のコースとあって、遠くは北茨城市をはじめ、学区外からも参加がありました。

参加者50名は大いに交流を深め、なおかつ格調高く平安時代に思いをはせながらの健康ウォークに、一味違った心地よい汗を流しました。

## 日立のよいところ

### 石名坂宿通りのエノキ

石名坂宿通りに大きなエノキが繁っています。このエノキは昭和6年の金砂神社大祭礼(大田楽)の後に、石名坂地区の人たちによって植えられ、樹齢71年になる由緒あるものです。

ここには昭和6年以前にもエノキはありましたが、金砂神社ゆかりの

エノキを伐採し、その切り口を御神輿安置台にするという由来があり、当時伐採されたようです。(西金砂の大祭礼と田楽の記録から)

今回の大祭礼でも、切り株は御神輿のお休み処となります。隣りにあった公会堂が移転し、その跡地が広場として整地されます。エノキがのびのびと育つようにとの配慮でしょう。4月には、現在のエノキとゆかりがあるといわれる若木が植えられ、72年後の大祭礼を待ちます。





## コミュニティ推進協議会 単会リレー訪問

市内には小学校区をエリアにコミュニティ活動する団体が22あります。それぞれの地域の特色を活かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくるための活動を続けています。今回は油縄子学区住みよいまちをつくる会を紹介します。

## 町内会・自治会との連携をより密に 油縄子学区住みよいまちをつくる会

### 地区の特長

油縄子学区は南北を桜川と鮎川に挟まれ、東は太平洋に面しています。中央を国道6号線、海側を245号線が通っています。中心部には日立製作所関係などの工場があり、油縄子小学校、多賀中学校、多賀高校、養護学校が隣り合っていて、工業と文教のまちとして発展してきた地区です。

### 会の構成

油縄子学区住みよいまちをつくる会は、昭和50年に設立された「油縄子市民運動協力会」から、より能動的な組織にしようと、平成10年に名称を変えてスタートしました。

“ひびきあう、みんなのまちづくりをめざそう”を基本方針に、油縄子コミセンを拠点に活動しています。

会長は、住みよいまちをつくる会・社会福祉協議会・コミセン運営委員会の長を務め、副会長1名がその補佐をしています。総務企画、環境美化、防災、調査広報、リクレーション、青少年育成の6専門部があり、事務局が庶務を担当しています。

### 特色ある行事

『防災訓練&ミニ運動会』は 別々に行っていた行事を、より多くの人に参加してもらおうと、同日に実施することにしたところ、参加者数も増えてたいへん好評です。

多賀消防署・第10分団の指導のもとに防災訓練が行われ、終了後はその場が運動会会場となります。子どもから高齢者まで参加できる種目を取り入れています。



消火器の使い方もクにも出来たゾー

青少年育成部が主催する『わくわくクラブ』は小学生が対象で、月1回第4土曜日に行っています。会場は油縄子コミセンが中心ですが、お泊まり会やハイキングなども参加率がよく、毎回子ども30名以上、大人ボランティア10名くらいが参加しています。

また、2～3歳児と母親を対象にした『親子ふれあい教室』も好評で毎回多くの参加者で賑わっています。手作りゲームや紙芝居、折り紙遊び、保健師や栄養士の話など、親子が一緒に楽しんでいます。



ママといっしょに楽しいな!!

### 今後の展望

「伝統的な行事を守るとともに、地域住民に活動を浸透させたい。現在、町内会と完全な形でリンクしていないので、連携をより密にして支部組織に移行したい。それによって会と町内会（支部）が活性化することを願っています」と、嶋崎会長は話しています。



会長 嶋崎 敏  
事務局 油縄子コミュニティセンター  
TEL 38-7581  
世帯数 3,124  
人口 6,581  
(平成14年6月1日現在)